

遠足幼稚園

□天地は學校だと古人が言ひました。實際廣い世界は、至るところに知識もあり、教訓もあります。同じ意味で、天地は幼稚園です。

□庭だつて、露路だつて、近所の往來だつて同じです。そういふのを近足幼稚園といひませうか。八百屋の店さき、肴屋の店さき、立派な、菜園であり、水族館です。呉服店の飾り窓が、お母さんの爲に工藝美術展覽會である以上に、有益な觀察教室です。しかし、八百屋の前では、觀察が餘り徹底して、色より形より、味の方にゆきそうです。そういふ指導法が講じてもありますからね。又、肴屋の店さきは、一寸立止まつてゐるのに生臭がつたり、水がはねたり、一尾づゝつまみ上げて觀察なんかも出来ません。そんなことされちゃあ、いきが悪くならあなど、わけえしゆにせなられそうです。そんなこんなで、近足幼稚園は、材料のあ

る割に、どうも幼児向きではありません。その上、往來がはげしくて、危くて仕方がないでせう。まあいゝのは縁日の夜店なんかですが、夏でもない限り、夜間幼稚園は利用しにくいでせう。

□そこで、一足のばして、遠足幼稚園といふことになりました。遠足といつたつて子どもは遠足で、おとなにとつては近足ですが、一步郊外に出で、一電車乗つて海濱に出れば、森あり、畑あり、野あり、磯あり、なんと豊富な幼稚園でせう。そこには、觀察繪本や、幼稚園の壁畫で平たく生氣なく見た自然が、立體的にいき／＼と、幼児の自由な觀察を待ち受けてゐます。たと若し、缺點があるとすればあんまり豊富多種多様で、子どもが目うつりがし過ぎて、却つて、何もよく見なかつたなんていふことです。そこは、指導者たる、お母さん先生、姉ちゃん先生の手腕を要します。

□但し、指導者の手腕といつても、知識的に教へるといふものではありません。それでは、遠足學校になつて仕舞ひます。

幼稚園はどこまでも幼稚園ですから、知識的授業はしてなりません。草の花そのものに、畑の野菜そのものに、野の蟲類そのものに、磯の貝類そのものに、子どもの興味をひきつけてゆくことです。それには、お母さん先生や姉ちゃん先生が、自分で先きに興味をそこへもたなければ出来ません。丘の上に腰かけて四方を眺め渡して、「あゝいゝ景色だなあ」だけでは、——それも大にいゝことですが、——それだけでは、幼児にはあんまり漠然としてゐます。

□勿論、こまかいものゝ觀察ばかりでなく、歩くこと、馳けること、廣い野に大きな聲で歌ふこと、皆で遊ぶこと、それらが、なんといゝことであるかは言ふまでもありません。狭い町中の幼稚園で得られない大保育です。

□こうした遠足幼稚園は年中開かれてゐます。しかし、今、此秋こそ、遠足幼稚園の一番いゝ季節です。幼稚園でもそこへ保育を擴げてゆきます。家庭でもどし／＼出かけて下さい。下品なことを申上げる様ですが、保育料は無料です。